



雨が降る中、役場庁舎前で最後のお別れをするピン・タンさん



(上) 学校での授業のほかに、夏休みなどを利用した子ども英会話教室「イングリッシュ・フォー・キッズ」が毎年開催されました。

(下) 成人講座「楽しい英会話」での風景。

さよならピン・タンさん 3年間の羽幌での思い出を胸に帰国の途へ

平成14年8月に英語指導助手としてカナダからやってきたピン・タンさんが、3年間の契約期間を終え、カナダへ帰国することになりました。

7月29日、役場ロビーで行われたお別れセレモニーでは、ピン・タンさんからのスピーチの後、職員から花束が手渡され、思わず涙ぐむ場面もありました。
この後、1カ月ほど日本国内を観光旅行し、9月初旬には帰国の途に着くとのことです。

今月の広報はほろでは、ピン・タンさんから最後のメッセージを受け取っていますので、日本語の原文のまま掲載します。

※英語指導助手：日本人の英語教師とチームで授業を行う外国人教師。町内の学校や保育所・幼稚園を訪問し、英語や英会話、外国文化の授業を行っています。

みんな本当ありがとう

文||ピン・タン
Text by Ping Tang

羽幌に来て3年間がたちました。羽幌に住んでいたこと、北海道に住んでいたことを誇りに思っています。

はじめは日本のことも日本の文化のことも全くわかりませんでした。それを理解することは私にとって本当に難しいことでしたが、友達や知り合い、職場の人たちは私にとっても親切にしてくれ、着いてすぐに行われたお盆祭りにも招待してくれました。

そのとき、私の友達はとても素敵な浴衣を貸してくれて、職場の人たちは私にきかせてくれました。それから盆踊りを生まれて初めて踊りました。みんなのお陰で緊張もほぐれ日本の文化が少しわかった気がしました。

またなぜかわからないのですが、賞をもらってしまいました。踊りの下手だった私がなぜもらったのか今

になってもわかっていません。多分、みんなの優しさだったのかな？

天売と焼尻に何回も教えに行きました。天売島ではたくさんの鳥やアザラシも見ることができました。あまりにもすばらしい島だったので、私の友達を10人くらい連れていき、サイクリングをしました。

友達も、見たことのないすばらしい景色に感動していました。焼尻島にも友達を連れて行きました。そのとき偶然お祭りの最中で、子ども達が御神輿を担いでいるところに出会いました。この経験は一生忘れられません。本当に美しくすばらしい島々でした。

思いおこせば最初から羽幌の人たちは私に優しくかったです。私が病気になるたびに、友達や職場の人たち

が食べ物や飲み物をたくさん持ってお見舞いに来てくれました。彼らが私のことを気にかけてくれたことが、すく私の心に響きました。

羽幌という町の中で生活することが、まるで私の家で生活しているように感じられ、より羽幌に愛着がわいてきました。この町の人はとても親切にしてくれて、家族のように私に優しくしてくれました。家にご飯を食べに誘ってくれたり、一緒に力又ーや歩くスキーや旅行に行ったり、本当にうれしかったです。

学校でも子ども達は、いつも笑顔で元気に私に話しかけてくれました。それに負けまいと親切を返したいと思っていましたが、結局負けてしまったかもしれません。

羽幌町と巡り会えたこの人生の旅が、私にたくさんの思い出を与え

ぎたので、私も何か恩返しをしたいのですが、返したくても返せない自分がかく住めば住むほど羽幌が好きになりました。

私は羽幌町での経験を生かしてこれからの人生を歩んでいきます。たくさんのすばらしい思い出を本当にありがとうございます。カナダに帰っても絶対に忘れません。ありがとうございます。さようなら。

